

原議保存期間	30年(平成59年3月31日まで)
有効期間	一種(平成39年3月31日まで)

各管区警察局広域調整担当部長
警視庁交通部長 殿
各道府県警察本部長

警察庁丁運発第166号
平成28年10月14日
警察庁交通局運転免許課長

高齢者講習における個人指導要領の制定について(通達)

高齢者講習の個人指導については、別添のとおり個人指導要領を定め、平成29年3月12日から運用することとしたので、事務処理上遺憾のないようにされたい。

別添

高齢者講習における個人指導要領

目 次

1	趣旨	1
2	個人指導に当たっての留意事項	
(1)	心構え	1
(2)	プライバシーの保護	1
(3)	認知機能検査に係る留意事項	2
(4)	録画・映像再生に係る使用機器への習熟	2
(5)	高齢者支援制度等に係る知識の習得	2
3	個人指導の方法	
(1)	総合的な指導	2
(2)	実車指導映像等を活用したリマインド指導	2
(3)	受講者個々の能力に応じた指導	3
4	具体的指導内容(例)	
(1)	実車指導項目のうち基本課題に係る指導	3
(2)	実車指導項目のうち運動機能に関する課題に係る指導	4
(3)	実車指導項目のうち記憶力・判断力に関する課題に係る指導	10
(4)	その他運転適性検査の結果や平素の運転状況等に応じた指導	14

1 趣旨

75歳以上の運転者(以下「高齢運転者」という。)による交通死亡事故件数及び交通死亡事故全体に占めるその割合は増加傾向にあり、年齢別運転免許(以下「免許」という。)保有者10万人当たりの交通死亡事故件数については、75歳以上の者によるものが、75歳未満の者によるものの2.5倍以上となっているなど、高齢運転者に係る交通事故情勢は極めて厳しいものとなっており、高齢運転者が今後更に増加することも踏まえ、高齢運転者による事故を防止することが強く求められている。

こうした状況を踏まえ、平成27年の道路交通法の一部改正により、高齢運転者の認知機能の現状を適時適切に把握するため、公安委員会は、一定の交通違反を行った高齢運転者に対して、臨時認知機能検査を行うとともに、認知機能の低下が自動車等の運転に影響を及ぼす可能性があることを示す一定の基準に該当したときに、臨時高齢者講習を行うこととされた。

また、法改正に伴い、免許証の更新時の高齢運転者で、認知機能検査の結果が第1分類のもの及び第2分類のものについては従来より高度化した3時間の高齢者講習が行われることとされた。

これらの臨時高齢者講習と免許証の更新時の高齢者講習の方法について、認知機能検査の結果に基づいた指導をより充実させるため、道路交通法施行規則が改正され

○ 自動車等を運転させることにより行う検査に基づく指導及び認知機能検査の結果に基づく指導は個人指導を含むものであること
とされたことにより、新たに個人指導が導入されたものである。

2 個人指導に当たっての留意事項

(1) 心構え

認知機能の低下が疑われる高齢運転者の中には、自己の認知機能の低下や運転能力の衰えを正しく認識せず、また、過去の運転経験が自信を生み、危険に対する慎重さが欠けている者があるとの指摘もある。

このため、ドライブレコーダー等により録画した運転状況の映像が、受講者自身の運転であることを十分認識させ、その映像をもとに、具体的な自己の運転の危険性を実車指導に引き続き、改めて説明するとともに、危険な場合には運転を回避させるなど、認知機能の検査の結果に応じた指導が必要である。

個人指導を行うに当たっては、このような高齢運転者の特性を理解しつつ、運転上の失敗のみを指摘して受講者の改善意欲をいたずらに減退させることなく、自らの運動能力や認知機能の低下の自覚を促した上で、その状況に応じた運転をすることによって安全な運転が継続できるという気持ちを持たせ、積極的に安全指導を受けようとする姿勢を引き出すことができるよう、指導方法を工夫しなければならない。

(2) プライバシーの保護

個人指導の内容は、受講者個人の認知機能や運動機能、運転に関する指導内容等、プライバシーに関わる部分が多いことから、受講者の緊張感を和らげ、指導を受け入れやすくするためにも、個室を使用するなど、プライバシーの保護に適した環境の整

備に配慮をすること。

(3) 認知機能検査結果に係る留意事項

認知機能検査は、受検者の記憶力・判断力の状況を確認する簡易な手法の一つであり、検査の結果は受検者の認知症の診断を行うものではない。個人指導では、認知機能の低下などの自覚を促すところ、認知症の診断は、あくまでも医師により行われるものであり、指導に当たっては認知症の診断が行われていると誤解を招かないよう留意すること。「高齢者講習における実車指導要領の一部改正について（通達）」（平成28年10月14日付け警察庁丁運発第165号）別添の2も参照すること。

(4) 録画・映像再生に係る使用機器への習熟

実車指導における受講者の運転を録画した映像を活用した指導は有効であるが、その効果をできるだけ高めるために、実車指導時における録画要領を含め、指導員自身が使用機器への習熟に努めること。

(5) 高齢者支援制度等に係る知識の習得

個人指導においては、運転に係る安全指導はもとより、運転することが危険と認められる場合には、自治体等が取り組んでいる移動支援施策や免許証返納者への各種サービスといった高齢者支援制度の教示等、運転をなるべく回避できるような指導も必要となる。

個人指導に当たる講習指導員は、平素から地域における高齢者支援制度に関する知識の習得に努めること。

3 個人指導の方法

(1) 総合的な指導

個人指導は、認知機能検査の結果、双方向型講義の受講状況、運転適性検査の結果、平素の運転状況（運転頻度等問診票等）、実車指導（運転行動診断票）を踏まえて総合的な安全指導を行うこと。このため、講習の最後に実施すること（個人指導に併行する映像教養を除く。）。

(2) 実車指導映像等を活用したりマインド指導

実車指導において指導した事項について、「運転行動診断票」や録画した映像を活用しながら、実車指導との相乗効果が上がるように指導すること。

実車指導時の受講者の様子をよく観察し、自己の運転行動の危険性に関する認識の有無を判断した上で、個人指導で映像を確認させた際、具体的な事象事例を交えながら、その者の理解度に応じたわかりやすい指導を行うこと。

受講者に理解させるのが難しいと感じたときは、理解が得られやすいよう、最も危険と認めた運転行動に重点を置くこと。なお、小型特殊免許のみを保有する場合や受講者の体調等により、実車指導を行わない場合、認知機能検査の結果、双方向型講義の受講状況、運転適性検査の結果、平素の運転状況（運転頻度等問診票等）などに

基づき、具体的な安全指導に努めること。

(3) 受講者個々の能力に応じた指導

認知機能の低下の状況には個人差があることから、実車指導、双方向型講義、運転適性検査における受講者の様子を観察し、個々の認知機能の低下の状況を考慮しつつ、受講者に応じた個人指導を行うこと。

なお、特に指導内容の理解が難しい受講者に対して、自尊心を傷付けないよう配慮して指導すること。指摘すべき項目が多岐に及ぶ場合は、特に危険な点など、安全上優先順位の高いものを指導すること。

4 具体的指導内容（例）

(1) 実車指導項目のうち基本課題に係る指導

ア 指導重点

普段運転する際に留意すべきことや、安全に運転するために必要な知識等基本的な事項を理解していないと思われる場合に指導する。

イ 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
○ 高齢運転者標識の表示 (四輪のみ)	○ 高齢運転者標識を表示していない ○ 高齢運転者標識がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者マークを表示するようにしましょう。 ・ 高齢者マークを付けることによって、周囲の車が注意してくれます。 ・ 昼間を含めて、いつもライトを点けることによって周囲の車が注意してくれます。
○ 無理な運転の回避	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体調がすぐれないときでも運転する ○ 夜間、悪天候時でも運転する ○ 不慣れな道路、狭隘な道路、混雑する道路、高速道路を運転する ○ 長距離・長時間運転、渋滞時に運転する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○○なときは、運転を控えていただくのが賢明です。どうしても運転をする必要がある場合は、一人での運転は控え、家族の方に助手席に乗っていただきましょう。 ・ ○○な道路には、できるだけ行かないようにしましょう。 ・ 長距離・長時間の運転や渋滞しそうな時間帯・場所での運転は、できるだけ避けるようにしましょう。

<p>○ シートベルトの装着 (四輪のみ)</p>	<p>○ シートベルトを装着しない</p> <p>○ 誤った装着をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトの装着を忘れていました。車に乗るときは、必ずシートベルトを締めましょう。 シートベルトの装着が誤っていました。正しく装着しなければ、衝撃から身を守ることができません。 <p>※ 実際の受講者の装着状況に合わせた指導を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 腰のベルトは骨盤にしっかり巻きつくように固定しましょう。 肩のベルトは首にかからないようにしっかり締めましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 後部座席の方も必ずシートベルトを装着させましょう。
<p>○ ヘルメットの正しい着用 (二輪のみ)</p>	<p>○ ヘルメットのあご紐を締めない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ヘルメットのあご紐を締めるのを忘れていました。ヘルメットのあご紐を締めなければ、かぶっていないのと同じです。事故を起こしたときにヘルメットが脱げないように、あご紐はしっかり締めましょう。 転倒した場合などの衝撃から身を守るために、プロテクターを装着するようにしましょう。
<p>○ 正しい運転姿勢</p>	<p>○ シートの位置が悪い</p>	<ul style="list-style-type: none"> シートの位置や背もたれの角度が正しい位置に調節されていませんでした。シートの位置や背もたれの角度が正しくなければ、安全確認や正確な運転操作ができません。正しい姿勢でスムーズに運転操作ができるようにしましょう。

(2) 実車指導項目のうち運動機能に関する課題に係る指導

ア 方向転換 (四輪のみ)

(ア) 指導重点

実車指導で方向転換を実施した結果等をもとに複数の運転操作を同時に行うこ

とが困難である等、高齢者特有の運動機能の低下等の状況を認識できるように指導する。

(イ) 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
<p>一つのことに気を奪われることなく、以下の項目を同時に行うことについて指導する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 速度調節（アクセル・ブレーキ操作） ○ 後退する方向及び周囲の安全確認 ○ 車両感覚 ○ ハンドル操作 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バックする速度にハンドルやブレーキ操作が遅れる ○ 後方や周囲の安全確認をしない ○ 障害物に接触する ○ まっすぐに入れない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バックする速度の速さにハンドル操作やブレーキ操作が遅れていました。 ・ バックするときに接触した側方の確認をしていませんでした。 ・ 駐車スペースの側方と並行になっていなかったり、前方と正対せず、車がまっすぐにスペースに入っていません。 ・ バックで方向転換するときなどには、アクセルやブレーキを操作した速度の調節、進む方向と車の周りの安全確認、ハンドル操作を同時にする必要がありますので、十分に速度を落として、車の進む方向や車と周りの障害物との距離を頻繁に確認しながら、進みたい方向に合わせてハンドルを操作して運転するようにしましょう。お年を召されると、同時にいろいろな操作をすることが難しくなるようですので、よく注意してください。

イ 8の字旋回（二輪のみ）

(ア) 指導重点

実車指導で8の字旋回を実施した結果等をもとに、複数の運転操作を同時に行うことが困難である等、高齢者特有の運動機能の低下等の状況を認識できるように指導する。

(イ) 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
<p>一つのことに気を奪われることなく、以下の項目を同時に行うことについて指導する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 速度調節（アクセル・ブレーキ操作） ○ ギアの選択 ○ 車体のバンク操作 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 速度にむらがあり不規則な旋回をする ○ ギアが合っていない ○ 車体がふらつき8の字走行できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回ることばかりに気をとられ、アクセルやブレーキ操作がうまくできていなかったようです。 ・ アクセルやブレーキの操作で回ることばかりに気をとられ、ギアが合っておらず、うまく回ることができませんでした。今回であれば、○速のギアで運転すれば、カーブの大きさに合っていたと思います。 ・ うまくバイクを傾けることができず、ふらついていました。 ・ お年を召されると、同時にいろいろな操作をすることが難しくなるようです。カーブの大きさや勾配に合った適切なギアを選び、アクセルやブレーキ操作で速度を調節し、車体を適度に傾けてバランスをとりながら、カーブや交差点をうまく回れるようにしましょう。

ウ 見通しの悪い交差点における運転

(ア) 指導重点

実車指導で見通しの悪い交差点における運転を実施した結果等をもとに、加齢に伴う水平視野の狭小化によって左右の見通しが悪くなり交差車両の発見が遅れる等、高齢者の運動機能の低下等の状況を認識できるように指導する。

(イ) 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
○ 徐行、標識・標示の有無の確認	○ 交差点手前で徐行せず、又は、一時停止の標識・標示に従わず、交差点内に入	<ul style="list-style-type: none"> あまり、交差道路の左右の安全を確認しないうちに、交差点の中に入っていました。見通しの悪い交差点では、必ず十分に徐行し、一時停止標識があるときは、必ず交差点の手前で止まりましょう。そして安全が確認できる位置まで少しずつ車を進ませながら、安全確認をするようにしましょう。
○ 安全確認の方法	○ 安全確認の方法や位置が悪い	<ul style="list-style-type: none"> 交差点のずいぶん手前で左右を確認されていました。確認した位置では、左右に車や人がいても、見つけることはできません。左右の安全確認できる位置まで少しずつ進みながら、確実に安全を確認するようにしましょう。
○ 交差道路の左右の安全の目視確認	○ 身体の上体を前に倒し覗き込む姿勢などをして、できるだけ視野を広く取り、交差道路左右の安全確認を目視により確認していない。	<ul style="list-style-type: none"> 交差道路の左右を覗き込むようにして、できるだけ視野を広くとりながら、目で安全確認をすることができていませんでした。この姿勢では、目で安全確認できる範囲が限られてしまい、十分ではありません。また、お年を召されると、見える視野の範囲も狭くなるようです。目だけを動かすのではなく、上体を前に倒し、左右を覗き込むように安全確認をしましょう。

エ 選択課題（第2分類のみ・四輪）

(ア) 指導重点

実車指導で行った選択課題の結果等をもとに、適切なペダル操作及びハンドル操作が必要とされる課題について、運動機能の低下等の状況を認識できるように指導する

(イ) 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
<ul style="list-style-type: none"> ○ 段差乗り上げ <ul style="list-style-type: none"> ・ アクセル操作 ・ アクセルからブレーキへのペダルの踏みかえ ・ ペダルの素早い踏みかえ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 強くアクセルを踏み過ぎる ○ ブレーキを踏み間違える ○ 乗り上げた後、すぐにブレーキを踏まない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段差に乗り上げるときに、アクセルを強く踏みすぎていました。少しずつ力を入れるように、力加減に気を付けてアクセルを操作するようにしましょう。 ・ ブレーキを踏むときに間違えてアクセルを踏んでいました。思いがけず、大きなエンジン音がしたときなどは、アクセルペダルから足を離して、すぐにブレーキに踏みかえましょう。 ・ 段差に乗り上げた後にブレーキを踏むのが遅れていました。お年を召されると、目で見て段差に乗り上げたとわかっているにもかかわらず、その後でブレーキを踏む反応速度が遅くなるようです。注意しましょう。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 車両感覚走行（S字、クランク等の狭路走行） <ul style="list-style-type: none"> ・ 速度調節 ・ 道路形態に合わせたハンドル操作 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害物に接触する ○ 脱輪する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車の速度にハンドル操作が遅れて障害物に接触してしまいました。お年を召されると交通状況に応じたアクセルやブレーキ操作による速度調節やハンドル操作をすることが遅くなるようです。速度とハンドル操作が合わないと、狭い道を運転できません。狭い道を運転するときなど、難しい交通状況では、十分に速度を落として運転するようにしましょう。
<ul style="list-style-type: none"> ○ パイロンスラローム <ul style="list-style-type: none"> ・ アクセル、ブレーキ操作 ・ ハンドル操作 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害物に接触する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車の速度にハンドル操作が追いつかず、障害物に接触してしまいました。お年を召されると交通状況に応じたアクセルやブレーキ操作による速度調節やハンドル操作をすることが遅くなるようです。速度とハンド

		ル操作が合わないと、自分が思っているように運転することはできません。十分に速度を落として、慎重に運転しましょう。
--	--	--

オ 選択課題（第2分類のみ・二輪）

(ア) 指導重点

実車指導で行った選択課題の結果等をもとに、適切なバンク操作及び速度調整が必要とされる課題について、運動機能の低下等の状況を認識できるように指導する。

(イ) 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
○ コーナリング ・ 速度調節 ・ 車体のバンク操作	○ カーブ手前で必要な減速をせず、又は、ブレーキが遅く、ブレーキをかけながらカーブに入る、又はカーブに入ってからブレーキをかける。 ○ ふらつく	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキをかけながらカーブに入ったり、カーブに入ってからブレーキをかけていました。カーブの形状に合わせてカーブの手前で十分に速度を落とすようにしましょう。 速度が遅くなりすぎてバイクがふらついてしまいました。カーブの形状に合わせてカーブに入る前に十分に減速し、カーブの後半からは少しづつ加速するようにしましょう。
○ パイロンスラローム ・ 速度調節 ・ 車体のバンク操作	○ ふらつく ○ 障害物に接触する	<ul style="list-style-type: none"> バイクがふらついて障害物に接触してしまいました。バイクの傾きと速度が合っていなかったのが原因だと思います。障害物の状況をみながら、速度を調節し、速度に合わせて車体を傾ける必要があります。お年を召されるとこのような操作を同時にすることが難しくなるようです。より慎重に運転しましょう。
○ 目標地点からの制動	○ 指示速度に達しない	<ul style="list-style-type: none"> タイヤがロックしてしまいました。ブレーキを操作する力加減がうまくで

<ul style="list-style-type: none"> ・ 速度の調節 ・ タイヤロックさせないブレーキ操作 	<ul style="list-style-type: none"> ○ タイヤがロックする ○ 空走距離が長い 	<p>きていないからです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキの目標地点から実際にブレーキをかけ始めるまでの距離（時間）が長いようです。お年を召されると、目を見てブレーキを踏むべき地点を通ったとわかって、その後のブレーキ操作が遅くなるようですので、速度を落としてより慎重に運転しましょう。
---	--	---

(3) 実車指導項目のうち記憶力・判断力に関する課題に係る指導

実車指導の結果等をもとに、記憶力・判断力が低下している状況を認識できるように指導する。実車指導における指導に対する受講者の理解度を観察し、理解していない場合は、重ねて個人指導において映像を確認させながらわかりやすく具体的な指導を行う。

ア 信号機のある交差点

(ア) 指導重点

記憶力・判断力が低下している者は、信号機のある交差点で信号を見落とししたり、信号の色（青・黄・赤）の意味する内容を咄嗟に判断できず、無意識に信号無視をしてしまう傾向がみられることを踏まえ、次の内容を指導する。

(イ) 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
<ul style="list-style-type: none"> ○ 信号機に近づくときの速度調節 ○ 信号灯火の確認 ○ 信号の順守 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信号機に気付かない ○ 信号機の灯火を確認していない ○ 赤信号を無視して 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信号機に気づきませんでした。交差点、横断歩道や踏切がある場所などにある信号機を必ず見落とさないように注意しましょう。信号機に近づくときは、信号機の灯火を確認するために、速度を落としましょう。 ・ 赤（黄）色の信号機の灯火に気づきませんでした。信号機に近づくときは、速度を落として、信号をしっかりと確認するようにしましょう。「今の信号は○色」などと声に出して確認するのもいい方法です。 ・ 赤信号を守らずに交差点に入りま

	<p>交差点に進入</p> <p>○ 黄色信号で停止しない</p>	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ずいぶん手前で黄色信号に変わったのに止まりませんでした。黄色信号は、急ブレーキにならないのであれば、止まらなければいけません。 • 記憶力判断力が低下すると、赤（黄）信号を見て確認していても、その信号の意味を判断できないうちに交差点に入ってしまうことがあるようです。また、ブレーキを踏む反応速度が遅くなっていることもあります。信号のある交差点では、信号をしっかりと確認して、赤（黄）信号で安全に止まれるような速度で運転しましょう。 • 青信号でも交差点を左折するときは、横断歩道、自分の車の左横や左後ろをミラーや目で確認してから曲がるようにしましょう。（右折する時は、横断歩道、自分の車の右横や右後ろの確認、対向車の動き、対向車の横をすり抜けて来るバイクや自転車がないかを確認してから曲がるようにしましょう。
--	-----------------------------------	---

イ 一時停止標識のある交差点

(ア) 指導重点

記憶力・判断力が低下している者は、一時停止標識のある交差点で一時停止をしなかったり、見通しの悪い交差点を通行するときの徐行が不十分で、交差車両の有無を確認するための左右の安全を怠る傾向がみられることを踏まえ、次の内容を指導する。

(イ) 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
○ 見通しの悪い交差点等における徐行及び標識・標示	○ 一時停止標識に気付かない	<ul style="list-style-type: none"> • 一時停止の標識に気づきませんでした。お年を召されると、動体視力や夜間視力が低下し、水平視野も狭

<p>の認識</p> <p>○ 停止線の直前における停止</p>	<p>○ 徐行するが停止しない</p> <p>○ 停止線を越えて停止する</p>	<p>くなって、車の進行方向ばかり見ていると、一時停止標識を見逃してしまうことがあるようですので、周りの状況をしっかり見て運転するようにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 速度は落としていましたが、一時停止場所で停止しませんでした。 ・ 一時停止場所で、停止線を越えて停止していました。記憶力・判断力が低下すると、一時停止標識を見てからブレーキを踏むまでの判断が遅くなったり、踏む力が不足したりするようです。標識を見てから停止線の直前で止まれるように、交差点の手前で十分に速度を落としてください。 ・ 一時停止の場所では、必ず停止線の手前で止まりましょう。しっかり車が停止してから、左右の安全確認をしてください。 ・ 停止線の手前で左右の安全が確認できなければ、停止線の手前で止まった状況から、安全が確認できる位置まで少しずつ車を進ませて、改めて停止してから安全を確認してください。
<p>○ 交差点左右の安全確認</p>	<p>○ 停止するが、片方ばかりに気を取られる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時停止場所でしっかり車を停止していますが、安全確認のときに右側ばかりを確認していました。片方だけでなく左右両方とも確認するようにしましょう。また、お年を召されると視野が狭くなるようですので、しっかり首を振って左右の安全を確認するようにしましょう。

ウ 進路変更

(ア) 指導重点

記憶力・判断力が低下している者は、進路変更時、路端からの発進時、障害物

の回避時及び車線変更時等に合図を出さなかったり、合図を出す際の安全確認が不十分である傾向がみられることを踏まえ、次の内容を指導する。

(イ) 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
○ 進路変更（右左折）時の合図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合図を出さない ○ 合図が遅れる ○ 直前又は進路変更しながら合図を出している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路変更や右左折するとき合図を出していませんでした。車の合図は、周りの車に自分の車の動きを知ってもらうために必要です。必ず合図をしましょう。 ・ 進路変更をするときに合図を出すのが遅いようです。記憶力・判断力が低下すると、周囲の安全確認やこれからしようとするブレーキやハンドルの操作に気を取られて、予め合図を出すのが苦手になるようです。車の合図は、周りの車に自分の車の動きを知ってもらうために必要なもので、早めに合図をしましょう。
○ 後方及び側方の確認	○ 目視をしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路変更する前に確実に安全確認をしていなかったようです。「ミラーで確認した」と言っておられましたが、ミラーだけでは見えない場所（死角）がありますので、確認する方向へ顔を向けて直接目でも確認するようにしましょう。
○ 緩やかな進路変更	○ 急な進路変更	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車線変更が急だったようです。後ろに車がいたら、急ブレーキや急ハンドルをさせていたでしょう。記憶力・判断力が低下すると、車線変更をするということだけに注意が集中してしまう傾向があるようです。合図をしてから3秒間おいて、緩やかに進路変更をしましょう。

エ カーブ走行

(ア) 指導重点

記憶力・判断力が低下している者は、カーブでの速度調節及びハンドル操作を適切に行えずに速い速度で進入し、対向車線にはみ出して正面衝突事故を起こしたり、注意を向けた方向に無意識にハンドルを操作してしまうことにより、道路外に逸脱して重大事故を起こす危険性あることを踏まえ、次の内容を指導する。

(イ) 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
○ 速度調節	○ カーブ手前で必要な減速をせず、又は、ブレーキが遅く、ブレーキをかけながらカーブに入る、又はカーブに入ってからブレーキをかける。	・ ブレーキをかけながらカーブに入ったり、カーブに入ってからブレーキをかけていました。カーブの形状に合わせてカーブの手前で十分に速度を落とすようにしましょう。
○ カーブの形状に合わせたハンドル操作又は車体のバンク操作	○ カーブでふらついたり、内回りする	・ カーブでふらついていました。 ・ カーブで内回りしていました。 ・ 速度とハンドル操作（車体のバンク操作）が合っていないことが原因だと思われます。カーブでは十分に速度を落とし、道路の形状に合わせて曲がるようにしましょう。

(4) その他運転適性検査の結果や平素の運転状況等に応じた指導

ア 指導重点

個人指導では実車指導において指導した事項や録画した映像を活用した指導のほか、認知機能検査の結果、双方向型講義の受講状況、運転適性検査の結果、平素の運転状況（運転頻度問診票）も踏まえた総合的な指導を行う。

イ 指導内容

指導内容	受講者の運転状況等	指導フレーズ例
○ 水平視野の狭小や視野欠損の疑いがあると認めらる者に対する指導	○ 安全確認をしたが走行してきた車を発見できない	・ 交差点で左右を確認していたようですが、右側から走ってきた車が見えていなかったようです。視野検査の結果をみても、右側が見えにくい状態になっているようです。運転す

		<p>るときは、右側が見えにくくなっていることを意識して、しっかり首を振って安全確認をするようにしましょう。</p>
<p>○ 平素の運転状況に対する指導</p>	<p>○ 夜間に運転する</p> <p>○ 毎日運転する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通量が多い場所を運転する ・ 山間の道路を運転する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間に運転をすることがありますが、夜間視力の結果があまり良くないようです。夜間の運転は、できるだけ避けるようにしましょう。 ・ 毎日〇〇通りを運転しておられるということですが、〇〇通りは、駅も近いことから、朝夕は車や人が多く、事故も起きているようです。そういう時間帯は、自分が気を付けていても事故に巻き込まれてしまうことがあります。事故に遭わない、起こさないためにも、混雑する場所や時間帯を避けて運転するようにしましょう。 ・ 毎日、町道（山間の道路）を〇〇まで運転しているということですが、カーブも多く道も細いので、とても危険な場所だと思います。危険な場所では十分に速度を落として慎重に運転するようにしましょう。
<p>○ 運転の自己評価に対する指導</p>	<p>○ 自信がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで無事故・無違反で、運転に自信があるとのことですが、〇〇さんの認知機能検査の結果をみると、記憶力や判断力が低くなっているおそれがあります。記憶力や判断力が低くなっていることは、自覚しにくく、危険を察知できない場合も多いと言われています。運転に自信を持つのも大切ですが、自信過剰にならないように安全で慎重な運転をするようにしましょう。

<p>○ 最近の事故体験等に対する指導</p>	<p>○ 自信がない</p> <p>○ 交通事故やヒヤリ体験がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> 車をぶつけることが多く、運転に自信がなくなってきたとのことですが、コミュニティーバスなど、自分で車を運転する以外の移動手段も考えてみませんか。不安な気持ちで運転するのは危険ですので、自信がないのであれば、他の移動手段を利用したり、家族の方に運転してもらうようにしましょう。また、運転免許証の返納も考えてみてください。 最近交通事故を起こされた（ヒヤリ体験をされた）とのことですが、 <ul style="list-style-type: none"> ① 事故（ヒヤリ体験）が記憶力・判断力や運動機能の低下が原因ではないと思われる場合は、同様な事故を防ぐために、今後どのような運転をすべきかについて質問するなど、受講者の理解度に合わせた指導 ② 事故（ヒヤリ体験）が記憶力・判断力や運動機能の低下が原因と思われ、実車指導における運転状況においても危険性が高い場合には、運転を控えることも必要であることを指導
<p>○ 代替移動手段の教示</p>	<p>○ 移動支援を知らない</p>	<ul style="list-style-type: none"> 替わりの移動手段がないとのことですが、例えば、○○（リーフレット等を配布し、自治体の行っている移動支援サービスや公共交通機関を教示）は、ご存じありませんか。体調等も考えて、少しでも運転に不安を感じれば、無理せず公共の交通機関を利用したり、家族の方に運転してもらうようにしましょう。
<p>○ その他</p>	<p>○ 運転上の心配事がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> 記憶力・判断力や視覚機能が低下していると認められる場合

	<p>○ 交通ルールや制度がわからない</p>	<p>は、専門医への診察を勧める。</p> <p>・ 交通ルールや制度に関するものであれば、わかりやすく説明する。わかりやすく説明しても、複雑すぎて理解できないということであれば、複雑な交通規制等が行われている駅前などの交通混雑地域や時間帯を避けて運転することや、運転自体を避けることを勧める。</p>
--	-------------------------	---